

200501343 A

厚生労働科学研究費補助金  
医療技術評価総合研究事業

<研究課題名>

抗がん剤の安全管理に関する研究

平成 17 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 土屋 了介

(所属機関 国立がんセンター中央病院)

平成 18 (2006) 年 4 月

厚生労働科学研究費補助金  
医療技術評価総合研究事業

<研究課題名>

抗がん剤の安全管理に関する研究

平成 17 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 土屋 了介  
(所属機関 国立がんセンター中央病院)

平成 18 (2006) 年 4 月

---

【 目 次 】

I. 総括研究報告

P 1~2 土屋 了介 / 国立がんセンター中央病院

『抗がん剤の安全管理に関する研究』

添付資料：「抗がん剤の安全管理に関する研究」実態調査 アンケート用紙

II. 分担研究報告

P 3 高上 洋一 / 国立がんセンター中央病院

『抗がん剤取扱手順書及び研修カリキュラムの作成』

P 4~5 北條 泰輔 / 国立がんセンター中央病院

『地域がん診療拠点病院の実態調査』

P 6~9 畠 清彦 / 癌研究会有明病院

『抗がん剤取扱手順書作成』

III. 研究成果の刊行に関する一覧

IV. 研究成果の刊行物・別刷

『抗がん剤の安全管理に関する研究』

主任研究者 土屋 了介/国立がんセンター中央病院 副院長

**研究要旨**

抗がん剤の処方から投与までの一連の過程において、医師、看護師、薬剤師等の関係職種との連携の在り方や役割について検討したうえで、抗がん剤による医療事故を防止し、適性使用を促進するためのシステムを構築する。具体的には、がん患者の診療を行う医療機関に対する実態調査を基に抗がん剤の「取扱手順書」を作成する。その妥当性の検討と普及を図るために、全国がん（成人病）センター協議会（がん専門医療機関の団体）などの機能を活用した研修等の検証研究を実施する。

**A. 研究目的**

抗がん剤は、その種類、治療方法、適用等が多岐に渡るとともに、日々新たな治療方法が開発されているために、その取り扱いには高度に専門的な知識と技術が要求され、その適正使用を推進することが極めて重要である。しかしながら、現状では抗がん剤の使用に関する十分な知識と経験のないままに処方され、確認がなされないままに投与したなどの医療事故を起こして患者の生命に重大な影響を及ぼす例が報告されるなど憂慮される事態となっている。一方、平成16年度から第三次対がん十か年総合戦略が開始され、がん医療の均てん化を強力に推進することとされており、安全ながん治療を全国どこでも安心して受けられる医療体制を構築する上で、抗がん剤の安全な取り扱いを担保するシステム構築は最低限必要な条件であり、緊急に対応する必要がある。

本研究の目的は、抗がん剤取り扱いに関する医療安全対策について、医療機関及び関係職種に広く周知するための取扱手順書を作成するとともに、その普及啓発のための方策を検討することである。その際に、現在行われているがん医療（特に抗がん剤治療）の実態等を十分に踏まえることで実効的なシステムを作る目的で、これら医療機関（特に地域がん診療拠点病院）における実態調査を実施する。

本研究の成果を活用することにより、国民がより安全な抗がん剤治療を受けることができる体制構築が可能となり、重大な医療事故やインシデント事例の減少に直結するものと考えられる。

**B. 研究方法**

初年度に、比較的多くのがん患者の治療を行っているがん専門医療機関を対象としたアンケート調査を実施し、抗がん剤の取扱手順書の有無、管理体制等の安全対策の状況等を調査する。この結果を踏まえ、抗がん剤の安全な使用を推進するために必要な「取扱手順書」を作成する。また、取扱手順書の普及啓発を効果的に行うための手段・方法を検討する。その研究成果を基に、いくつかの地域において検証研究を実施し、その妥当性、実行可能性を検討し、さらに普及啓発の効果等を検証する。最終的には、得られた研究成果を「研究推進事業」を活用することで、より多くの医療機関への普及を図る。

**<倫理面への配慮>**

本研究は抗がん剤の使用に関する標準手順書を作成し、その普及方策について検討を行うものであり、個別の患者等に関する倫理的問題は発生しない。

また、医療機関の実態調査の結果については、回答した個別の医療機関が特定されないよう、回答内容等については統計的に処理して報告する。

**C. 研究結果**

初年度は全国30施設に対して、病院事務(施設概要)、レジメン管理担当、診療部門、薬剤部門ならびに看護部門別に、以下の項目についてのアンケート調査を実施した。つまり、抗がん剤調製の実態、がん専門領域の専門・認定看護師や医療安全管理者の配置状況、注射用抗がん剤を含むレジメンの登録・管理システム、患者および家族への説明、処方・指

示の状況、抗がん剤の薬剤管理指導、輸液ポンプ・シリンジポンプ、与薬や静脈注射の取り扱い、化学療法に関するチーム医療活動あるいは院内教育などに関する質問事項である(添付資料参照)。

これと並行して、国立がんセンター中央病院における抗がん剤治療に関し、以下の手順を確認、改訂することで、本研究の手順案を作成した。

1. レジメン標準管理手順書
2. 病棟など、薬剤部外における抗がん剤調製手(処方と薬剤の確認、調剤時の被爆・汚染防止、調製済の確認、残液廃棄等)
3. 輸液ポンプやシリンジポンプ
4. 医療者間でダブルチェック
5. 抗がん剤の投与に関する指示(薬剤名、投与量、投与方法・時間、使用器材など)の記載方法
6. 内服用抗がん剤の取り扱いに関するマニュアル
7. 入院患者の持参薬の取り扱い
8. 血管外漏出時の対応についてのマニュアル

#### D. 考察

抗がん剤の取り扱いには高度に専門的な知識と技術が要求される。その安全な取り扱いを担保するシステムを構築することは、国民医療の安全性を高めるために極めて重要である。本研究の目的は、我が国の実情に基づいた抗がん剤取扱手順書を作成するとともに、その普及啓発のための方策を検討することである。具体的には、アンケート調査結果と国立がんセンター中央病院における医療安全活動を基に手順書案を作成し、その後、全国がん(成人病)センター協議会に加盟しているがん専門医療機関の機能を活用した検証と普及啓発のための方策を検討する。

#### E. 結論

本研究の成果を活用することにより、国民がより安全な抗がん剤治療を受けることができる体制構築が可能となり、重大な医療事故やインシデント事例が減少することが期待される。また、厚生労働省の構築したがん医療のネットワークと国立がんセンターの機能を有機的に活用する点で独創的な研究と考える。

#### F. 健康危機情報

該当なし

#### G. 研究発表

##### 論文発表

Tsuboi M., Tsuchiya R., et al., Gefitinib in the adjuvant setting:safety results from a phase III study in patients with completely resected non-small cell lung cancer. *Anti Cancer Drugs*, 16: 1123-1128, 2005.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし

## 添付資料

## 平成17年度厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「抗がん剤の安全管理に関する研究」実態調査

## A. 施設概要等についてお答え下さい。 回答者のお名前、ご所属:

○ 病院施設の概要をお答え下さい。(平成17年12月1日現在)

- 1 病床数 ( ) 床)
- 2 がん患者病床数 ( ) 床)
- 3 医師数 ( ) 名)(非常勤 名)
- 4 薬剤師数 ( ) 名)(非常勤 名)
- 5 看護師数 ( ) 名)(非常勤 名)
- 6 がん専門領域の専門・認定看護師数 ( ) 名)(認定看護師 名)
- 7 1日平均外来患者数 ( ) 名)
- 8 1日平均入院患者数 ( ) 名)
- 9 外来院内処方せん枚数1日平均 ( ) 枚)
- 10 院外処方せん枚数1日平均 ( ) 枚)
- 11 院外処方せん発行率 ( ) 枚)
- 12 入院処方せん枚数1日平均 ( ) %)
- 13 注射せん枚数1日平均 ( ) 枚)(外来 枚)
- 14 薬剤管理指導件数(平成17年11月分) ( ) 件)
- 15 採用している抗がん剤の品目数 ( ) 品目)
- (規格違いは1品目と数える)
- 16 抗がん剤調製の処方せん枚数1日平均(調製者不問) ( ) 品目)
- 17 疑義紹介件数1日平均 ( ) 品目)
- ( ) 品目)
- ( ) 品目)
- ( ) 枚)(外来 枚)
- ( ) 件)
- ( ) 枚)(外来 枚)
- ( ) 件)

(平均値は平成17年11月分で算出、小数点以下四捨五入)

○ 各部門のリスクマネージャーを統括する専任のリスクマネージャー(医療安全管理者)はいますか。

- a 専任者がいる。
- b 兼任者がいる。
- c いない。
- d その他( )

○ 化学療法専用病棟・治療専門外来がありますか。

- a 化学療法専用病棟がある。
- b 治療専用外来がある。
- c ない。

(複数選択可)

○ 診療部門全体に渡り、抗がん剤等を担当する医療安全管理者はいますか。

- a いる )
- (役職名 )
- (aの場合、役職名をお答え下さい)
- b いない )

○ 各部門において、抗がん剤の安全性確保のための医療安全管理者はいますか。(aの場合、役職名をお答え下さい)

- 診療部門 )
- a いる→(役職名 )
- b いない )
- 薬剤部 )
- a いる→(役職名 )
- b いない )
- 看護部 )
- a いる→(役職名 )
- b いない )

○ 投与前検査や効果副作用判定が過不足なく行える設備・システム(検査室、画像診断部等)が整っていますか

- a はい
- b いいえ



C. 以下の質問には、各部門毎のご担当の方がお答え下さい。

1. 診療部門について 回答者のお名前とご所属:

【説明・同意について】

診 1 抗がん剤を使用する際、患者および家族への説明は、誰が行っていますか。

(複数選択可)

- a 医師が行っている。
- b 医師が行い、看護師が補足説明を行っている。
- c 専門看護師や認定看護師など専門領域の看護師が行っている。
- d 薬剤師が行っている。
- e その他( )

診 2 抗がん剤を使用する際、患者および家族への説明は、どのような方法を用いて行っていますか。

(複数回答可)

- a パソコンまたはビデオを使用し説明している。
- b 紙に書いて説明している。
- c 口頭にて説明している。
- d その他( )

診 3 抗がん剤を使用する際、患者および家族から、どのようにして同意をもらっていますか。

(一つお選び下さい)

- a 必ず書式の文書にて同意(サイン)を得ている。
- ( a1:統一された書式を利用、a2:特に統一された書式はない )
- b 口頭で同意を得ている。
- c 特に同意を得ない。
- d その他( )

【処方について】

診 4 抗がん剤の処方はどのようなシステムで行なっていますか。

(複数回答可)

- a オーダーリングシステムに登録されているレジメンにより処方する。
- b 一部オーダーリングシステムで、残りは手書き処方せんによる。
- c あらかじめ必要事項が印刷された処方せんを利用している。
- d その都度、手書きしている。
- e 処方内容をデータベースに入力し、そこから処方を印刷している。
- f 患者ごとの登録管理表を利用している。
- g その他( )



手書き処方を行っている場合のみ、お答え下さい。

診 5 抗がん剤の処方とは他の薬剤と違う処方せんを使用していますか。  
(1つお選び下さい)

- a 化学療法専用の処方せんがある
- b 内服、注射薬、通常の処方せんを使用している。
- c その他( )

オーダーリング処方している場合のみ、お答え下さい。

診 6 オーダーリングで実施できる範囲についてお答え下さい。  
(1つお選び下さい)

- a 処方だけでなく、実施に関係する指示票までオーダー可能。
- b 処方のみで、実施に関係する指示票は別に準備が必要。
- c その他( )

診 7 登録されているオーダーリング処方を実施できる範囲をお答え下さい。

(1つお選び下さい)

- a 注射薬だけでなく、内服薬なども一括で処方している。
- b 注射薬・内服薬は、別々に処方している。
- c 抗がん剤のみ処方可能で、他の薬剤は別オーダーで処方している。
- d その他( )

診 8 支持療法薬剤等も、「処方セット」などのオーダーリングシステムに収載されていますか。

(1つお選び下さい)

- a 支持療法なども、統一された「処方セット」などに登録されている。
- b 通常の処方を行なっている。(オーダーリングシステムに登録されていない)
- c その他( )

診 9 投与間隔を確認する方法は、どのように行なっていますか。

(1つお選び下さい)

- a オーダーリングシステムにより確認。
- b 処方医師以外が、確認するシステムがある。  
→具体的に( )
- c 特にない。
- d その他( )

診 10 検査値などを確認して最終的に投与決定する方法は、どのように行なっていますか。

- a 処方医師と確認医師とで、処方内容をダブルチェックしている。
- b 特にない。
- c その他( )

## 【指示票について】

診 10 指示票の記載方法はどのように行っていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 電子カルテ内に組み込まれている。
- b 印刷された指示票を利用している。
- c 手書きにて行っている。
- d 印刷、手書き共にある。
- e その他( )

診 11 手書き指示票を使用している場合、記載方法は統一されていますか。

例) 投与時間について1時間, 1h, 60分, 60m,  
投与量についてプリンプラン1A, 10mg, 2ml,  
(1つお選び下さい)

- a 全ての記載方法に院内規定がある。
- b 一部、規定がある。
- c 特に規定はない。
- d その他( )

## 【体表面積・投与量について】

診 12 体表面積の計算方法はどのように行っていますか。  
(1つお選び下さい)

- a オータージェンダステム内に組み込まれている。
- b 医師が各自で行っている。
- c その他( )

診 13 体表面積は具体的には、どの式を利用していますか。  
(複数回答可)

- a DuBoisおよびDuBiosの公式
- b 藤本・渡辺式
- c その他( )

診 14 抗がん剤の投与量の切捨てはどのように行っていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 四捨五入している
- b 切捨てている
- c 計算通り投与している。(体表面積×投与量)
- d その他( )

診 15 体表面積よりの計算で CDDP 108.82mg/body となった場合、実際の投与量はどのようになりますか。  
(CDDPの製品規格は、10mg/20ml、25mg/50ml、50mg/100mlです)

( ) mg ・ ( ) ml )

## 【教育について】

診 16 化学療法についての系統的な教育的な講義を開いていますか。  
(1つお選び下さい)

- a はい  
→開催される頻度を教えてください( に1回程度)
- b いいえ

## 【医師(化学療法担当)組織について】

診 17 化学療法を担当している医師の割合をお答え下さい。  
合計を100とした%でお答え下さい。

- 内科系 ( %)
- 外科系 ( %)
- 放射線治療医師 ( %)
- 緩和治療医 ( %)

診 18 内科系、外科系、放射線治療医師、緩和治療等との合同カンファレンスを開き、治療法についての議論をしていますか。  
(1つお選び下さい)

- a はい  
→開催される頻度を教えてください( に1回程度)
- b いいえ

診 19 化学療法当日の投与決定は誰が行っていますか。

- a 診療グループ
- b 主治(担当)医
- c 指導医
- d 研修医またはレジデント
- e 医師以外( )

## 2. 薬剤部門について 回答者のお名前とご所属:

【経口抗がん剤調剤について】

薬 1 薬剤部において、経口抗がん剤の調剤(処方監査・調剤・調剤後監査等)で、安全性確保のための方策をとっていますか。

- a 行っている。
- b 特に行っていない。

薬 2 設問薬1で、aの場合、該当している項目をお答え下さい。

(複数回答可)

- a 取扱マニュアルを作成している。
- b 処方監査チェックシート(フローチャート)を利用している。
- c 薬歴の確認を義務づけている。
- d 処方せんの余白に、投与量の増減・投与間隔等を記載している。
- e 棚表(管理カード)を利用している。
- f 抗がん剤専用の棚を配置している。
- g 複数者で監査を行っている。
- h 写真入の抗がん剤一覧表と照合している。
- i 抗がん剤の略語について統一している。
- j その他( )

【注射用抗がん剤調剤について】

薬 3 注射用抗がん剤は、誰が調製していますか。

(該当している項目を○で囲んでください)

- a 薬剤師が調製(a1:入院患者分、a2:外来患者分)
- b 医師が調製 (b1:入院患者分、b2:外来患者分)
- c 看護師が調製(c1:入院患者分、c2:外来患者分)
- d その他( )

薬 4 設問薬3で、aの場合、前処置などに処方されている注射薬の調製も行っていますか。

(1つお答え下さい)

- a 行っている。
- b 行っていない。
- c その他( )

薬 5 設問薬3で、aの場合、薬剤師が抗がん剤調製を行う注射せんは1日平均何枚ですか。また薬剤師1人あたり何枚ですか。

(平成17年11月分)

1日平均(入院) 枚(外来) 枚  
 薬剤師1人あたり( ) 枚調製/日)

- 薬 6 設問薬 3 で、bあるいはcの場合、抗がん剤調製を行う注射せんは1日平均、およそ何枚ですか。  
(平成 17 年 11 月分)
- |     |         |       |
|-----|---------|-------|
| 医師  | 1日平均(入院 | 枚)(外来 |
| 看護師 | 1日平均(入院 | 枚)(外来 |
- 薬 7 薬剤部に安全キャビネットは設置してありますか。
- (aの場合、規格と室内循環型か外排気型か、また台数をお答え下さい)
- |   |           |        |
|---|-----------|--------|
| a | あり        | 型)、台数( |
|   | →規格(class |        |
| b | なし        |        |
- 薬 8 設問薬 7 で、bの場合、安全キャビネットが設置されていない理由をお答え下さい。  
(複数回答可)
- |   |                     |
|---|---------------------|
| a | 設備投資できないため。         |
| b | 設置場所がないため。          |
| c | クリーンベンチで調製を行っているため。 |
| d | その他( )              |
- 薬 9 設問薬 3 で、薬剤師が抗がん剤調製を行っている場合、どこで行っていますか。  
(複数回答可)
- |   |                        |
|---|------------------------|
| a | セントラル(中央調製)にて行っている。    |
| b | サテライト(病棟等での調製)にて行っている。 |
| c | その他( )                 |
- 薬 10 設問薬 3 で、医師あるいは看護師が抗がん剤調製を行っている場合、どこで行っていますか。  
(1つお答え下さい)
- |   |                   |
|---|-------------------|
| a | 抗がん剤調製専用の作業場所     |
|   | →(安全キャビネット;あり、なし) |
| b | 薬剤部の安全キャビネット      |
| c | 特に決まっていない。        |
| d | その他( )            |
- (aの場合、どちらかに○を付けて下さい)
- 薬 11 薬剤部において、注射用抗がん剤の調製(処方監査・取り揃え・調製・調製後監査・残液廃棄等)で、安全性確保のための方策をとっていますか。  
(1つお答え下さい)
- |   |           |
|---|-----------|
| a | 行っている。    |
| b | 特に行っていない。 |

薬 12 設問薬 11 で、a の場合、該当している項目をお答え下さい。  
(複数回答可)

- a 取扱い(払出し方法等)マニュアルを作成している。
- b 処方監査チェックシート(フローチャート)を利用している。
- c 一部クリニカルパスに組み込んでいる。
- d 注射せんに投与量・投与間隔・体表面積等のチェック欄を設けている。
- e 薬歴の確認を義務づけている。
- f 棚表(管理カード)を利用している。
- g 抗がん剤専用の棚を配置している。
- h 抗がん剤調製マニュアルを作成している。
- i 計算メモの作成を行っている。
- j 換算表を作成している。
- k 自動計算された量(数)の再計算を行っている。
- l 複数者で監査を行っている。
- m 使用バイアル・アンブナル数の再確認を行っている。
- n 配合変化・コアリング、調製量等の目視による確認を行っている。
- o 廃棄方法についてマニュアルを作成している。
- p 調製済抗がん剤の搬送方法について取決めがある。
- q 抗がん剤の略語を統一している。
- r 併用されている経口薬についても処方の有無を確認している。
- s その他( )

薬 13 薬剤部において、注射用抗がん剤の手書き処方の場合、処方監査・取り揃えで、安全性確保のための方策をとっていますか。  
(1つお答え下さい)

- a 行っている。
- b 特に行っていない。

薬 14 設問薬 13 で、a の場合、該当している項目をお答え下さい。  
(複数回答可)

- a 手書き処方用抗がん剤取扱い(払出し方法等)マニュアルを作成している。
- b 処方監査チェックシート(フローチャート)を利用している。
- c 一部クリニカルパスに組み込んでいる。
- d 注射せんに投与量・投与間隔・体表面積等のチェック欄を設けている。
- e 薬歴の確認を義務づけている。
- f 棚表(管理カード)を利用している。

- 薬 15 医師あるいは看護師が、注射用抗がん剤の調製をしている場合(設問 薬 3 でbあるいはc)、安全性確保のための方策を行っていますか。  
(1つお答え下さい)
- a 行っている。
  - b 特に行っていない。
- 薬 16 設問薬 15 で、aの場合、該当している項目をお答え下さい。  
(複数回答可)
- a 病棟などにおける、抗がん剤調製マニュアルを作成している。
  - b 計算メモの作成を行っている。
  - c 換算表を作成している。
  - d 自動計算された量(数)の再計算を行っている。
  - e 複数者で監査を行っている。
  - f 使用バイアル・アンプル数の再確認を行っている。
  - g 配合変化・コアリング、調製量等の目視による確認を行っている。
  - h 廃棄方法についてマニュアルを作成している。
  - i 抗がん剤の略語を統一している。
  - j 併用されている経口薬についても処方の有無を確認している。
  - k その他( )
- 薬 17 設問薬 15 で、aの場合、抗がん剤を調製済であることの確認はどのようにしていますか。  
(1つお答え下さい)
- a 葉袋、点滴ボトル両方に調製者がサインをする。
  - b 葉袋、点滴ボトルどちらかに調製者がサインをする。
  - c 何かに記載をする。  
→具体的に( )
  - d 特に確認はしない。
  - e その他( )
- 薬 18 薬剤部において、抗がん剤・支持療法薬剤を含め予製を行っていますか。  
(1つお答え下さい)
- a 行っている。  
→(種類、保存期間)
  - b 行っていない。
- (aの場合、薬剤の種類と保存期間を具体的に教えてください)

## 【抗がん剤の薬剤管理指導について】

薬 19 入院がん患者への薬剤管理指導は行っていますか。  
(1つお答え下さい)

- a 全ての薬剤(抗がん剤や麻薬を含む)について指導を行っている。
- b 麻薬を中心とする疼痛緩和を中心に行っている。
- c がん患者は行っていない。
- d その他( )

薬 20 設問薬19で、aあるいはbの場合、合計の実施患者数と請求件数は何件ですか。また、担当薬剤師は何人ですか。  
(平成17年11月分)

実施患者数( )人、請求件数( )件  
担当薬剤師数( )人

薬 21 設問薬19で、aあるいはbの場合、具体的内容をお答え下さい。  
(複数回答可)

- a 薬剤管理指導チェックシート等のマニュアルを作成している。
- b クリニカルパスにそって抗がん剤の薬効・副作用等を説明している。
- c 特定の抗がん剤(TS-1やイレツサ等)を中心に指導を行っている。
- d 特定のレジメンで治療中の患者に対し指導を行っている。
- e その他( )

薬 22 外来化学療法を受けている外来がん患者へ薬剤管理指導を行っていますか。  
(1つお答え下さい)

- a 行っている。
- b 行っていない。

薬 23 設問薬22で、aの場合、実施患者数は何人ですか。また、実施件数は何件ですか。  
(平成17年11月分)

実施患者数( )人、実施件数( )件

薬 24 設問薬22で、aの場合、具体的内容をお答え下さい。  
(複数回答可)

- a 原則対象患者全てについて行っている。
- b 特定の診療科の対象患者に行っている。
- c 外来投薬窓口で質問があったときに行っている。
- d クリニカルパスにそって抗がん剤の内容・副作用等を説明している。
- e 薬剤管理指導チェックシート等のマニュアルを作成している。
- f 抗がん剤利用「くすりのしおり」を作成している。
- g レジメン毎に患者説明文書を作成し指導している。
- h メーカー作成の患者用資料を利用している。
- i その他( )



薬 25 外来化学療法を受けていない外来がん患者へ薬剤管理指導を行っていますか。  
(1つお答え下さい)

- a 行っていない。
  - b 麻薬を中心とする疼痛緩和を中心に行っている。
  - c 経口抗がん剤を中心に行っている。
  - d 処方された薬剤全てについて指導を行っている。
  - e その他( )
- a 医師から依頼のあった患者に指導を行っている。
  - b 麻薬が処方された初回患者に対し行っている。
  - c 特定の診療科の対象患者に行っている。
  - d 外来投薬窓口で質問があったときに行っている。
  - e 薬剤管理指導チャックシート等のマニュアルを作成している。
  - f 薬剤部で作成した小冊子を利用している。
  - g お薬の説明書を薬袋に添付している。
  - h その他( )

薬 26 設問薬 25 で、b、c、dの場合、具体的内容をお答え下さい。  
(複数回答可)

【院外調剤薬局への対応】

薬 27 抗がん剤を含む処方外来院外処方せんとして発行していますか。  
(1つお答え下さい)

- a 発行している。
- b 発行していない。

薬 28 設問薬 27 で、aの場合、院外調剤薬局に対して安全性確保のための方策を行っていますか。  
(1つお答え下さい)

- a 行っている。
- b 特に行っていない。

薬 29 設問薬 28 で、aの場合、該当する項目をお答え下さい。  
(複数回答可)

- a 採用しているレジメンについての説明会を定期的に行っている。
- b 特殊な薬剤の使用方法について、院外調剤薬局へ周知している。
- c 指導内容に関するコメントを作成し、外来院外処方せんと共に渡している。
- d 院外調剤薬局での指導内容を確認している。
- e 院外調剤薬局からの疑義紹介で、その対応を医師と事前に打合済の項目がある。
- f その他( )

## 3. 看護部門について 回答者のお名前とご所属:

## 【輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱】

看 1 抗がん剤を点滴で投与する時、輸液ポンプやシリンジポンプを使用していますか。

(1つお選び下さい)

- a 必ず使用している。  
 b 時々使用している  
 →具体的に記してください( )  
 c 使用していない。  
 d その他( )

看 2 設問1でCのご回答の場合、輸液ポンプを使用しない理由をお答えください。

(複数回答可)

- a 輸液ポンプの台数が不足しているため。  
 b 設定ミスによるインジケントを防止するため。  
 c 輸液ポンプによる血管への過剰な圧力がかかることを防止するため。  
 d その他( )

看 3 設定1でabのご回答の場合、抗がん剤投与時、輸液ポンプの設定の確認をどのように行っているかお答えください。

- a 看護師1人で行っている。  
 b 医師が行っている。  
 c 看護師がダブルチェックを行っている。  
 d その他( )

## 【与薬取り扱い】

看 4 抗がん剤の与薬について、投与前に医療者間でダブルチェックを実施していますか。

(1つお選び下さい)

- a 必ず実施している。  
 b 一部実施している  
 c 実施していない。  
 d その他( )

看 5 設問4で a あるいは b の場合、ダブルチェックは誰と行っていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 医師と看護師で実施している。
- b 看護師同士で実施している。
- c その他( )

看 6 抗がん剤の投与に関する指示(薬剤名、投与量、投与方法・時間、使用器材など)は、カルテの指示表に記載されていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 必ず記載されている。
- b 一部記載されている。
- c 記載されていない。
- d その他( )

看 7 指示表の記載方法はどのように実施されていますか。  
(1つお選び下さい)

- a レジメン毎に統一された指示票を使用している。
- b 毎回医師が手書きで記載している。
- c その他( )

【内服用抗がん剤の取り扱い】

看 8 内服用抗がん剤の取り扱いに関するマニュアル(規約)はありますか。  
(1つお選び下さい)

- a ある
- b ない

看 9 内服用抗がん剤の管理は、誰が行っていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 看護師が管理している。
- b 患者自身が管理している。
- c 自己管理が可能であれば自己管理とし、自己管理が不能であれば看護師が管理している。
- d その他( )

看 10 抗がん剤以外の内服薬は、看護師が管理(看護師が薬を保管し、配薬)していますか。  
(1つお選び下さい)  
(bのご回答の場合、どのような薬剤を看護師が管理していますか)

- a 全ての薬を看護師が管理している。
- b 一部の薬を看護師が管理している。  
→具体的に記してください( )
- c 全て患者が管理している。
- d その他( )

看 11 内服用抗がん剤を患者が自己管理している場合、内服確認をどのように実施していますか。  
(1つお選び下さい)

- a 内服時間に実際に内服している場面を確認する。
- b 内服後の殻シートを残してもらい、あとで看護師が内服していることを確認する。
- c 口頭で内服したことを尋ね確認する。
- d 確認していない。
- e その他( )

看 12 内服用抗がん剤を看護師が管理している場合、患者に配薬する前の薬剤確認をどのように行っていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 複数の看護師が指示表の内服時間・投与量をダブルチェックで確認し、配薬している。
- b 担当している看護師が1人で指示表を確認し、配薬している。
- c その他( )

看 13 入院患者の持参薬の取り扱いについて、どのようになっていますか。  
(1つお選び下さい)

- a 薬剤部で処方された薬剤との相互作用等を確認し、薬剤一覧表を作成している。
- b 看護部で内容を確認し、必要に応じて薬剤部へ相互作用等の確認を依頼している。
- c 持参薬について、特に内容等の確認は行っていない。
- d その他( )

【静脈注射の取扱】

看 14 抗がん剤の静脈注射に関するマニュアルはありますか  
(1つお選び下さい)

- a ある。
- b ない。

看 15 設問 14 で a の場合 抗がん剤の静脈投与マニュアルに記載されている項目をお答えください。  
(複数回答可)

- a 静脈カテーテルの種類、太さについて。
- b 器材の選択について。
- c 配合変化について。
- d 感染管理上注意について。
- e 抗がん剤の曝露対策(PPE)について。
- f 静脈注射実施における観察ポイントについて。
- g その他( )